



船橋市議会議員（市民社会ネット）

浦田秀夫通信

第 104 号
2014 年 5 月

自 宅 船橋市松が丘 4-31-5 TEL&FAX 047- 466-6019
事務所 船橋市高根台 6-38-9 TEL&FAX 047- 461-1350
メール urata.hideo.1950@gmail.com ブログ浦田秀夫で検索

新京成電鉄

非常ボタン未設置踏切 10 カ所

26 年～28 年に設置

「新京成線滝不動 2 号踏切で踏切を横断中の高齢者が転倒したが、踏切には非常ボタンがなかった」と市民から通報がありました。



（詳細は通信 102 号に掲載）

調査した結果、当該踏切をはじめ 10 カ所の踏切に非常ボタンが設置されていないことが判明しました。

また、これらの未設置踏切が、市や周辺自治会・町会の反対を押し切って夜間・早朝の無人化を実施した前原駅、高根木戸駅、滝不動駅、三咲駅間に集中していることも明らかになりました。

第 1 回定例市議会ではこの問題を取り上げ、まず無人化するまえに非常ボタンを設置すべきだったと指摘し、新京成電鉄に早期に非常ボタン設置を求めるよう質問しました。

市は「新京成電鉄からは、平成 26 年度～28 年度の 3 カ年で踏切非常用ボタンを設置するとの回答を得ている」と答弁しました。

一刻もはやく設置するよう申し入れることを要望しました。

川崎市の新清掃工場を視察

稼働開始から 30 年を経過し、老朽化が進んでいる北部清掃工場の建て替え事業が 25 年度から着手されていますが、この北部清掃工場と同じ



ストーカ式焼却炉で、設計・施行も同じ荏原環境プラント（株）が行い、平成 24 年 3 月に完成し稼働している川崎市の清掃工場（王禅寺処理センター）を 4 月 24 日、市民環境経済委員 6 人で視察しました。

新しい処理センターは、ダイオキシン類の排出抑制など排ガスによる環境負荷を可能な限り低減し、ごみ焼却余熱を活用した発電設備によって工場内の電力を賄うとともに剰余電力は電力会社に売電されています。

1 日の最大発電量は 7500kwh でその内約 4 分の 3 を売電し、年間で 7 億円の売り上げになっているとのことでした。事業費が 134 億円ですから 20 年間で建設費を回収できるほどの売電量です。

北部清掃工場もほぼ同規模の施設ですので同様の売電量が見込まれます。

船橋市の場合は、設計・施行の他、運転も民間事業者委託する DVO 方式での建て替え事業ですが、川崎市の場合は昼間の運転は市直営で行い夜間のみ事業者委託しています。

市政報告会を 4 月 20 日、高根台公民館で開催しました。私の方から第 1 回定例市議会の内容を通信 103 号を使って報告。参加された皆さんからは、防災対策や高齢者医療・福祉などについての意見や質問が出されました。市政報告会に先立って行われた「浦田秀夫と市民の会」総会では、1 年間の活動報告や今後の行事計画、来年の市議選にむけた活動計画などが提案され承認されました。

まだ終わらない原発事故

福島の実状を知ろう！バスツアー

4月5日、まだ終わらない原発事故、福島の実状を知ろう！バスツアーに参加しました。

主催は、なのはな生協。脱原発をめざして活動している同生協が、福島第1原発事故から3年経っても未だ収束せず、復興すらできない現状を直視し、原発事故がもたらす私たちの暮らしへの影響について考えようと企画したものです。

当日は、総勢45名で原発被害者「相双会」の皆さんのガイドで楢葉町、富岡町を視察し、「相双会」の皆さんとの交流会も行いました。

この先帰宅困難地区につき通行止め、ゲートで遮断され、さながら国境の様でした。

桜が満開でした。



津波に流された富岡駅

3年経っても手つかずの富岡駅前の津波被害にあった建物。

3年間時間が止まっている様でした。



原発被害者「相双会」の皆さんとの交流会。

妊娠8ヶ月の娘さんを連れて9カ所も転々と移住したAさん。

原発が危ない、少しでも遠くに逃げろと言われて、情報がなく小学生2人と中学生の娘を連れ

て親戚の家や妹の家などを転々としたBさん。

嫁と孫を連れて避難したが、孫が移転した学校でいじめに合い、嫁がうつになったCさん。

原発事故によって、故郷を追われ、家族が引き裂かれた現実を痛感しました。

法政大学総長

田中優子さん講演会

今こそ戦争への流れを止めよう！田中優子さんに学ぶ憲法と江戸学～をテーマに、九条の会・千葉地方議員ネットと九条の会・ちばけんが共催した憲法集会が4月19日、船橋市民文化ホールで開催され1000名を超える人々が参加しました。



田中優子さんの「江戸時代の270年間は戦争をしない時代であった。戦国～朝鮮出兵でどん底になった状況から、もう戦争はしない、内戦もしない、海外戦争もしないと幕府が決断した」「戦争はしない、鉄砲は持たない、法によって国を治める、そういう政治思想を教育するために家康が教科書を作った」という話は目から鱗が落ちたという感じでした。

「明治の時代になって戦争の時代に入った。日清戦争から第二次世界大戦まで、戦争の悲惨な体験・反省から二度と戦争をしないことを決意した。

そして現代、新しいグローバリゼーションの中でどのような国にするのか、戦争する国にするのか、しない国にするのか。江戸時代との違いは、憲法で戦争をしない国と決めることができるし、実現できる」と述べられました。

集会の最後に、九条の会・千葉地方議員ネットを代表して私が閉会の挨拶を行いました。

朝日新聞の憲法に関する世論調査を引用し、同紙が憲法九条を「変えない方がいい」が1年前の調査に比べ52%から64%に増えるなど、有権者の軍事力強化に対する不安が高まり、平和指向が高まっていると分析していることを紹介。安倍政権の暴走に対する国民の危機意識の現れだと述べ、この国民の危機意識を受け止めるために大衆運動や政治運動の分野でも超党派の運動を作ろうと訴えました。